

東京清掃青年部

第64回定期大会を開催

東京清掃青年部は10月24日(木)にS.Kホールにて、第64回定期大会を開催しました。各支部からの代議員・本部委員など、合計46名が参加しました。

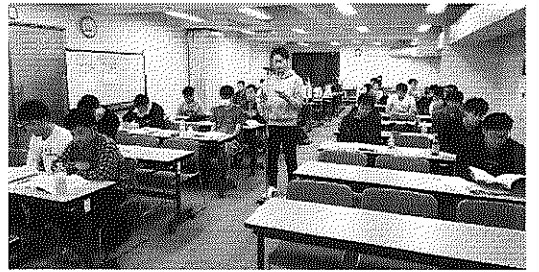
経過報告を全体で確認した後、運動方針案を高野副部長より提案しました。代議員から方針案に賛成の立場で地連活動の活性化や青年部組織の強化などについて7本の発言があり、とりわけ第三地連青年部としての発言では、他地連との交流を行うことでさらに横のつながりが強くなったという報告と今後の取組を強化し、自衛隊による復興支援・賃上げについて話がありました。



新たな体制でも頑張るぞ！

金確定闘争の課題などと併せて「青年部運動の必要性を全員で前進させてほしい」と激励のあいさつをいっただきました。

4年間も青年部を引っ張っていただきました高木青年部長が今期で退任となり、「青年部の活動でいろいろと勉強になることや仲間との横のつながりが図れることは絶対に将来の宝になります。支部・地連の仲間と協力しながら、皆で取り組んでほしいと思います。」と今後の青年部に対する期待を込めた退任あいさつがありました。また、新たに中央支部の高野青年部長が選出され、「本部青年部が選出され、4年目となりますが、自分ごとだけでなく、仲間との存在が一番大事だと思っています。新青年部長として不安がありますが、ひとつひとつ全力で頑張っていきます。」と先頭に立って闘う決意が述べられました。



活発な討論によって闘う運動方針を確立！

つひとつ全力で頑張っていきます。」と先頭に立って闘う決意が述べられました。この間、新規採用によって青年部員が増え、活動が活発になってきています。学習と交流を基軸とした青年部活動は、次世代の担い手育成としても大きな意味を持つと思っています。今後も新規採用獲得に向けて大きな声を上げ、仲間と共に運動を進めたいと思います。

（東京清掃青年部 小坂書 記者）

東京清掃青年部新たな執行部体制

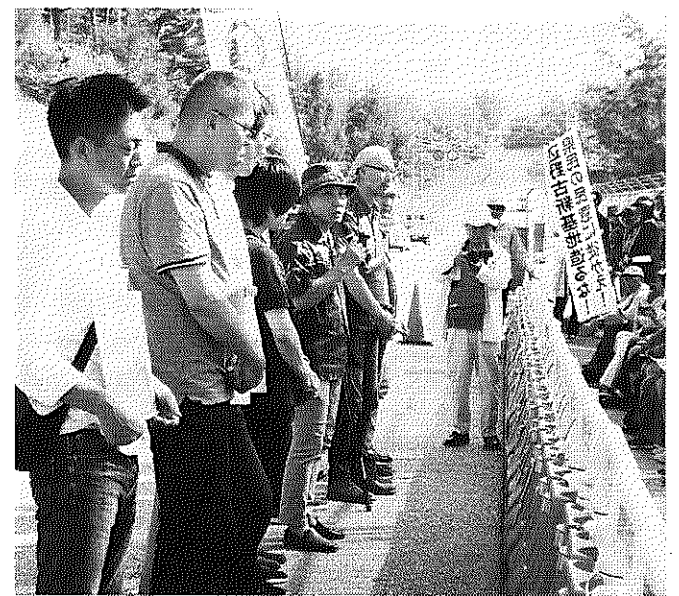
- 部長 高野 飛鳥(中央)
 - 副部長 山口明日波(江東)
 - 書記長 小坂瑠以斗(板橋西)
 - 執行委員 廣崎 隼人(文京)
 - 執行委員 神戸 健太(品川)
 - 執行委員 武井 直人(千代田)
- (敬称略)

沖縄県民の民意を無視する 新基地建設を許さない！

自治労都本部沖縄派遣団

今年も自治労都本部沖縄派遣団が沖縄の地に赴き、反戦・平和行動を取組みました。東京清掃からは5名が参加し、自治労都本部の仲間と共に「反戦・平和」の思いを深めました。

5日の午前中は、活動のメインである辺野古新基地建設現場のゲート前にて座り込み行動に参加し、自治労都本部派遣団からも連帯のあいさつをさせていただきました。土砂投入の運搬車が来ることはありませんでしたが、現地の方と共に「対馬丸記念館」では学童疎送の歴史を学び、塔にて資料館を見学し、一般市民が受けた被害を学



都本部派遣団から共に闘う決意を表明

10月4日(金)に第16回の清掃・人権交流会定例会を開催し、特別報告として「くにたち原爆・戦争体験伝承者」の永田一郎さん(長崎伝承担当)を招きました。

永田さんがお話するのは、14歳の時に長崎の原爆被害を体験された桂茂之さんの被爆体験です。講話開始から、原爆の恐ろしさ、長崎に落とされた当時の様子、そして桂茂之さんが体験した様子を、細かく、分かりやすく講演してくれました。長崎に原爆が落とされたその日、桂さんは中学3年生でありながら勤労動員の作業中であり、長崎駅近くの教会脇で被爆にあつたことでした。様々な偶然が重なったのか一命はとりとめたものの、一瞬にして辺りの様子は見たことのない景色に変わっていき、必死に爆心地の浦上地区を経て、市内から20キロ以上離れた自宅にたどり着いたとのことでした。

これまでの長崎や広島、原爆の講話、東京大空襲の講話を体験者の方々から聞かせていただいていたことが、伝承者からの講話は今回が初めてとなりました。

伝承者として体験者から学び、どこを強く伝えるのか、体験者が伝えたいのはどのような問題と捉え、今後様々な学習をしていくながら取組を進めていきます。

(清掃・人権交流会 坂部 事務局)

戦争伝承者からの講話による学習

清掃・人権交流会定例会での特別報告



永田さんからの講演

10月4日(金)に第16回の清掃・人権交流会定例会を開催し、特別報告として「くにたち原爆・戦争体験伝承者」の永田一郎さん(長崎伝承担当)を招きました。

永田さんがお話するのは、14歳の時に長崎の原爆被害を体験された桂茂之さんの被爆体験です。講話開始から、原爆の恐ろしさ、長崎に落とされた当時の様子、そして桂茂之さんが体験した様子を、細かく、分かりやすく講演してくれました。長崎に原爆が落とされたその日、桂さんは中学3年生でありながら勤労動員の作業中であり、長崎駅近くの教会脇で被爆にあつたことでした。様々な偶然が重なったのか一命はとりとめたものの、一瞬にして辺りの様子は見たことのない景色に変わっていき、必死に爆心地の浦上地区を経て、市内から20キロ以上離れた自宅にたどり着いたとのことでした。

これまでの長崎や広島、原爆の講話、東京大空襲の講話を体験者の方々から聞かせていただいていたことが、伝承者からの講話は今回が初めてとなりました。

伝承者として体験者から学び、どこを強く伝えるのか、体験者が伝えたいのはどのような問題と捉え、今後様々な学習をしていくながら取組を進めていきます。

(清掃・人権交流会 坂部 事務局)